蓮田市長選挙に立候補予定のかたへ

「蓮田市精神障害者当事者会そよ風」からの切なるお願い

蓮田市内に精神障害者に対応できる地域活動支援センターや相談支援事業所はございません。国策である地域包括ケアシステムを盾にして、肝心の精神障害者の頼る場所をなくしてきました。蓮田市は精神障害者保健福祉手帳を取得している精神障害者に、埼葛北地区自立支援協議会圏域内(3市2町：蓮田市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町)で委託している、地域活動支援センター（埼葛北地域活動支援センター ふれんだむ）と相談支援事業所（埼葛北障がい者生活支援センター ふれんだむ）を利用するように説明しています。上記のセンターは宮代町の東武動物公園駅周辺にございます。ただでさえ外出困難な障害者に電車で遠方に通うことを強いているのです。通所困難な人にはアウトリーチするというのですが、定かではない状態です。

元々、蓮田市内に相談できる場所がなかったのでしょうか？いいえ。蓮田市には、小規模地域生活支援センター「風」という場所がありました。しかし地域生活支援センターから地域活動支援センターへの移行を樋口曉子元市長が前向きに考えなかったことにより、中野和信市長の時には移行できず、閉所を余儀なくされました。

蓮田市内には就労継続支援B型事業所「かもめ」があります。私達、精神障害者が地域で安心して暮らしていくためには、まず医療があり、生活訓練、社会参加訓練、就労訓練という支援を受けられる必要があります。このうちの生活訓練、社会参加訓練の支援を受けられる場が市内にないのです。デイケアや地域活動支援センターや相談支援事業所がないのに、どうやって社会参加や地域生活ができるのでしょうか？そのような支援なく、就労支援を受けられるでしょうか？無理です。大抵の精神障害者は発症の時期が思春期と重なることが多く、家にひきこもるしかありません。

最近、精神障害の存在が重視され、医療・福祉も充実してきています。精神障害者の若年層は、この流れにのり、病気も軽症化して、社会参加が容易になってきています。しかし、バブル期から就職氷河期に発症した40～60歳代の重症化した精神障害者が社会参加するのは本当に困難です。社会参加しても、その精神的なもろさから、現代の殺伐とした人間関係のために、病気を再燃・再発し、社会から孤立することになります。そして、また、生活訓練からとなると、軽症化している若年層と一緒にやっていくこととなり、復帰は難しいのです。

県南の川口市やさいたま市に比較的近く、都心へのベッドタウンとしても立地条件の良い蓮田市が、保健所的には幸手保健所管内、地区としては、利根地区にあることが不思議です。近隣の市町の人口が増えているのに、なぜ蓮田市は人口が減り続けているのか？住んでいる人にはわかりますが、なんでも「かりもの」ばかりなのです。そのくせ、お金だけはかかります。委託金を払いすぎているからなのではないでしょうか？地域包括ケアシステムというのは、圏域内を面的にケアするというようにうたっていますが、面どころか、線的にも点にも機能していません。なぜ4分の1くらいの拠出金を出しているのに、市内に、整備された場所が一か所もないのでしょうか。

蓮田市の精神障害に対する偏見や差別は根強いものがあります。自立支援医療制度(精神通院医療)を受けている人（1,191人）に比べて、精神障害者保健福祉手帳を頂いている人（587人）の人数が少ないのはなぜでしょうか？それは、地域に精神障害に対する理解が少なく、むしろ、偏見や差別の対象になりやすいことを知っているからです。医療を受けていない人の存在を考えると、より多くの精神疾患者（推定約2,000人）が蓮田市内に存在すると思われます。コロナ禍ということもあり、多くの市民がひきこもり状態にあります。その中に精神疾患が隠ぺいされてしまうのではなく、もっと自由に生きられる権利があると思います。私たちがのびのびと生活できる場所や困ったことをすぐ相談できる場所を身近な市内につくって下さい。何卒宜しくお願い申し上げます。

蓮田市精神障害者当事者会そよ風　代表　高木良文